2日

### 小久保秀之(国際総合研究機構 生体計測研究所 研究部長)

**施術者** 宮沢法義 **実施日** 2010年11月1日

方法 白いぼキュウリ (Cucumis sativus 'white spin type') の切片 (実験試料皿2皿) に、キュウリの香が強くなるよう、30分間の非接触ヒーリングを実施。ヒーリングテストは2試行実施。その後、24時間ガス容器に保管し、発生したキュウリガスの濃度からJ値 (ヒーリングパワーの大きさ)を算出。比較・較正用のブランクテストの結果と比較しました。

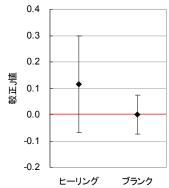


**結果** J値は実験試料と対照試料のキュウリガスの濃度比 $C_E/C_C$ の自然対数で表されます。 ヒーリングパワーの平均値は J=0.115 (零点補正済み較正値)で、中堅クラスでした。 ヒーリングテストとブランクテストのJ値に統計的有意な差はありませんでした (p=0.146,t検定、片側)。

\* 本研究所では、暫定的にヒーリングパワーを、J < 0.1 初心者、0.1 < J < 0.2 中堅、0.2 < J エキスパートと階級分けしています。

生データ	ヒーリング	ブランク
第1試行	0.095	-0.025
	0.134	-0.169
第2試行	0.693	0.553
	0.336	0.439
平均値	0.315	0.200
標準偏差	0.274	0.351

較正J値	ヒーリング	ブランク	
第1試行	0.193	0.072	
	0.231	-0.072	
第2試行	0.197	0.057	
	-0.160	-0.057	
平均値	0.115	0.000	
標準偏差	0.184	0.075	
t検定(片側)	0.146		



留意点1 本測定法はパワーの大きさを測定できますが、技の巧みさは測定できません。

**留意点2** パワーが大きくても、それが直ちにヒトの病を癒す能力を意味するわけでありません。

## 文 献

- 1) 小久保秀之、高木治、山本幹男: キュウリを生体センサとして用いたガス測定法の開発. *Journal of International Society of Life Information Science*, 27(2): 200-213, 2009.
- 2) 小久保秀之、高木治、小山悟史:ガス測定法の応用. *Journal of International Society of Life Information Science*, 28(1): 95-112, 2010.
- 3) 小久保秀之、高木治、小山悟史、山本幹男: ヒーリングパワーのポテンシャルの空間分布 ーキュウリを生体センサと するガス測定法による試みー. *Journal of International Society of Life Information Science*, 28(2): 236-249, 2010.

## 解説 ガス測定法の原理

本測定法は、生体センサとして白いぼキュウリの切片を用います。ヒーリング実験用の切片(実験試料)と何もしない切片(対照試料)が対になっており、実験試料と対照試料とを比較することでヒーリング効果を検出します。常に実験試料と対照試料を対にして測定するので、キュウリ個体の品質のばらつきや温度などの環境要因の変動を打ち消すことができます。

**ヒーリング実験**:白いぼキュウリから厚さ1cmの試料対を切り出し、一方をヒーリング用の実験試料E、他方を何もしない対照試料Cとします。ヒーリング施術後、実験試料と対照試料をそれぞれ容積2.2Lの容器に入れて、室温24 $^{\circ}$ で24時間保管します。保管後、酢酸エチル検知管(ガステック社、141L)にてキュウリガスを300mL(100mL×3回)吸引してガス濃度を読み取り、読み値の比の自然対数(J値)を算出します。

**ブランク実験**:キュウリ個体は季節や産地によってガスの出方に違いを生じることがあるため、J値の零点補正のために、全く何もしないブランク実験用の試料もヒーリング実験用試料と同時に作成します。

### 解説 J値

J値は次の式で表されます。

 $J = k \ln(C_{\rm F}/C_{\rm C})$ 

 $C_{\rm E}$ : 実験試料のガス濃度(酢酸エチル換算)  $C_{\rm C}$ : 対照試料のガス濃度(酢酸エチル換算) k: 係数 (k=1)

この式の右辺は物理量、左辺はヒーリングパワーです。この式を通じて、ヒーリングなどの未知能力は現代物理学(生物物理学)と結びついています。すなわち、ヒーリングは、現代物理学で取り扱い可能な物理現象であることを意味します。

## 付録1

次の表はガス濃度の読み値です。11月に入っていたため、ガス濃度は夏場のキュウリの半分以下でした。

宮崎産	第1試行 [ppm]		第2試行 [ppm]	
	実験	対照	実験	対照
ヒーリング	330	300	150	350
	400	350	250	350
ブランク	390	400	230	380
	380	450	290	270
平均値	375	375	230	337.5
標準偏差	31	65	59	47

# 付録2





